

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(9月22日～9月28日)

2020年10月8日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ルカシェンコ大統領が事前予告なしに大統領就任式を実施。(9/23)
- ルカシェンコ大統領就任式に対する抗議活動が全国で発生(9/23)
- リトアニア、ラトビア、エストニアが、8月31日に入国禁止としたベラルーシ高官30名(ルカシェンコ氏含む)に加えて、新たに101名を入国禁止対象に追加。(9/25)

内政・外交

【ルカシェンコ大統領動静】

●事前予告なしに大統領就任式を実施。(9/23)

式典は独立宮殿において、高官、議会上下院議員、国家機関・地方行政府・全国区のマスメディアの長、学術・文化・スポーツ分野の活動者ら数百人が招待されて実施された。

・ルカシェンコ大統領の演説要旨：

「大統領就任の日は、あなた方と私の、揺るぎないそして極めて重要な勝利の日である。」

「我々は、『カラー革命』が成立しなかった数少ない、あるいは唯一の国となった。」

「我々は新憲法についての仕事を進めている。真の政党制の発展のための条件を創り出し、選挙関連法規を改善し、地方自治改革の問題に取り組まなければならない。」

(9/23 ベラパン通信、国営ベルタ通信)

●崔啓明駐ベラルーシ中国大使との会談(9/24)

「習近平国家主席は自分(ルカシェンコ大統領)の当選を一番に祝ってくださった。」

「(前日の大統領就任式について)ベラルーシの法律では、西側諸国の誰かに事前通知する必要などない。就任式には2000人近く(注：報道では約700人)が招待されていたのだから、秘密にするなど実際は不可能だった。」

「我々は、自国の選挙についても再選された大統領の正統性についても、認めるだとか認めないだとか

誰にも頼んでいない。」

(9/24 ベラパン通信)

●フランスの新聞によるインタビューで「ルカシェンコ氏は退任すべき」旨述べたマクロン仏大統領に対してコメント。(9/28)

「経験豊富な政治家として、未熟者に助言しよう。自らの論理に従って、黄色いベスト運動が起きた2年前の時点で、フランス大統領自身が退任すべきであった。」

(9/28 TUT.by)

【内政】

●裁判所が、コレスニコヴァ氏(ババリコ陣営代表)をはじめ調整評議会関係者の拘留に関する弁護士からの異議申し立てを相次いで却下。(9/21, 22)

(9/21, 22 ベラパン通信)

●調整評議会幹部会メンバーのズナク弁護士、拘留所でハンガーストライキを開始して5日が経ったが体調に問題はない。同氏の弁護士談。(9/22)

(9/22 ベラパン通信)

●大統領就任式に関する調整評議会幹部会メンバーの発言(9/23)

チハノフスカヤ元候補：「これはいわゆる秘密の就任式。実際にはルカシェンコは今日、隠居した。」

ラトウシュコ元文化相：「選挙で80%以上得票したと自称する、去り行く大統領が、自身の就任式に係る特

別オペレーションを実施した。」

(9/23 ベラパン通信)

●23 日の大統領就任式に対する抗議活動が全国で発生。(9/23)

内務省発表によると、5000 人近くが参加し、364 名が拘束された。ミンスクでは治安部隊が放水車や催涙ガスを使用して対処。

(9/23, 24 ベラパン通信、9/24 TUT.by)

●マケイ外相の子息(外務省経済協力・持続的開発局次長)が外務省を退職。この他、同省の国家儀典局次長も退職。(9/24)

(9/24 TUT.by)

●拘置所でハンガーストライキを実施中の調整評議会幹部会メンバーのズナク弁護士、健康状態が悪化。(9/24)

(9/24 TUT.by)

●情報省が、独立系ニュースサイト TUT.by のインターネット・マスメディアとしての資格剥奪を求めて提訴。(9/25)

同資格は、軍事紛争や非常事態発生地域及び大規模イベントの現場での取材や情報発信に法的根拠を与えるもの。審理は 10 月 8 日にミンスク市の経済裁判所で実施予定。

(9/25 ベラパン通信)

●コレスニコヴァ氏の弁護士で 24 日に音信不通となったリュドミラ・カザク氏、ミンスク市内の拘置所にいることが判明。(9/25)

(9/25 TUT.by)

●ミンスク市裁判所、コレスニコヴァ氏(ハバリコ陣営代表)を 11 月まで保護観察下に置く地区裁判所の決定を合法と認定。(9/25)

(9/25 TUT.by)

●ミンスク市で女性による「チハノフスカヤ氏の就任式予行演習」が実施された。(9/26)

その後デモ行進に約 300 人が参加。グロドノ市中心部でも、赤白赤の旗を掲げて約 200 人が行進。内務省発表によると、全国 10 か所で抗議活動が行われ、150 人が拘束され、その内 116 人が拘置所に留置された。

(9/26 TUT.by)

●ベラルーシのサイバー・パルチザンが国営放送のウェブサイトを実行ハッキング(9/26)

警察による暴力の動画がオンライン放送され、数分後、同放送のサイトが一時的に閉鎖された。

(9/26 dev.by)

●ミンスクで抗議活動「国民による真の大統領就任式」が実施された。(9/27)

同市内では日中、地下鉄 7 駅が閉鎖された他、モバイル・インターネット通信が一部遮断された。ブレスト、ジョジノ、ゴメリなど地方都市でも雨が降る中、抗議活動が実施され、治安部隊が参加者を拘束。

内務省発表によると、27 日は全国で 22 件の抗議活動が実施され、350 人が拘束された。

(9/27 TUT.by)

●調整評議会幹部会メンバーのラトウシュコ元文化相の発言(9/27)

「ロシアと EU から安全の保障が得られるなら、調整評議会はベラルーシに帰国して権力移行と新たな大統領選挙実施について現政権と交渉を開始する用意がある。」

(9/27 TUT.by、9/28 ベラパン通信)

●調整評議会幹部会メンバーのアレクシエーヴィチ氏(ノーベル文学賞受賞者)、ドイツに出国。(9/28)

「同評議会に対する刑事告訴とは無関係」である旨発言。

(9/28 TUT.by)

●調整評議会が、幹部会メンバーのズナク弁護士に対して拘置所でのハンガーストライキを中止するよう呼びかけ。(9/28)
(9/28 TUT.by)

【外交】

●崔啓明・駐ベラルーシ中国大使が名誉勲章を受章。(9/22)
受章理由は、「ベラルーシと中国の間の、政治、貿易投資、融資・投資、学術・技術及び人文分野の関係の発展と強化に対する多大な個人的貢献」。勲章授与の決定にはルカシェンコ大統領が署名した。
(9/22 国営ベルタ通信)

●ペスコフ露大統領報道官、ルカシェンコ大統領の就任式を受けて発言。(9/23)
「この場では如何なるコメントもしないこととする。理由は、本件は完全にベラルーシ指導層の主権に関わる国内決定事項であるからだ。」(同報道官は就任式について何なら知らされていなかったとのこと。)
(9/23 TUT.by)

●ルカシェンコ大統領の就任式の後、欧米各国が同氏の大統領としての正統性を認めないとの声明を発表。(9/23)
正統性不承認を表明したのは、米国、EU、ドイツ、英国、カナダ、ウクライナ、ポーランド、リトアニア、ラトビア、エストニア、スロバキア、チェコ、デンマーク、オランダ。
(9/23 ベラパン通信)

●ベラルーシ外務省、ルカシェンコ大統領の正統性に対する批判に応答。(9/24)
「権力の唯一の源であり主権者であるベラルーシ国民は自らの選挙を実施した。個別のアクターによって考え出された、如何なる外部からの正統性の手続きも、どこから見ても不毛なものだ。」
(9/24 ベラパン通信)

●汪文斌(Wang Wenbin)中国外務省報道官の発言(9/24)
「我々はベラルーシ国民が行った選挙を尊重する。外部勢力が国内で騒動を作り出すことに反対する。」
(9/24 TUT.by)

●ペスコフ露大統領報道官の発言(9/25)
「西側がルカシェンコ氏を大統領として承認しないことは、間接的な内政干渉だ。」
(9/25 ベラパン通信)

●リトアニア、ラトビア、エストニアが、8月31日に入国禁止としたベラルーシ高官30名(ルカシェンコ氏含む)に加えて、新たに101名を入国禁止対象に追加。(9/25)
(9/25 ベラパン通信)

●ノルウェーとスウェーデンの外務省もルカシェンコ氏の正統性を認めない旨の声明を発表。(9/24, 25)
(9/24, 25 ベラパン通信)

●バイデン米大統領候補、ルカシェンコ氏による大統領就任式は正統性がないと指摘。(9/26)
同候補はまた、トランプ大統領がルカシェンコ氏の行動への反対を示さず、民主的運動にも支持を示さないことを批判。
(9/26 ベラパン通信)

●マケイ外相、第75回国連総会一般討論演説で登壇(ビデオ形式)。(9/26)
「遺憾ながら、自国の政治的野心のために国連の場を悪用しようとする国々の試みが増強されていることを指摘する。」
(9/26 ベラパン通信)

【経済】

【国内経済】

●ユーラシア開発銀行、ベラルーシの2020年GDP成長率は2.3%のマイナス、インフレ率は5/9%と予測

(9/22 ペラパン通信)

●有限責任会社「中国・ベラルーシ産業技術イノベーションセンター」、中国・ベラルーシ産業特区「巨石」の入居企業として登録。(9/25)

同センターはベラルーシ国立科学アカデミー並びに広東省科学アカデミー及び同省仏山市の産業技術研究院によって立ち上げられた。2021年には、新素材・産業技術・デジタル技術・バイオテクノロジー・製薬・農業などの分野で3件または4件のプロジェクトが立ち上げられる予定。

(9/26 ペラパン通信)

●国家予算から給与が支弁される職員の平均月給、8月は前月比3.9%減の988ベラルーシ・ルーブル。

(9/26 ペラパン通信)

●2020年8月1日時点の企業債務、同年1月1日比12.5%増。

(9/27 ペラパン通信)

●プレストの鉛蓄電池工場、建設継続の見通し

プレスト市内の自由経済区「プレスト」における工場建設に関して、2019年6月14日付のリス・プレスト州知事(当時)による建設一時停止の決定が失効した旨、現プレスト州知事が9月25日に決定した。

同工場をめぐるのは、本年6月22日にルカシェンコ大統領が住民投票による決定を約束していたが、当該住民投票が実施されるか否かは現時点で未定。

(9/28 TUT.by)

【対外経済】

●2020年1月ー7月期のサービス輸出額は前年同期比8.1%減の44億8670万USD。サービス輸入額は同17%減の26億1830万USD。

(9/27 ペラパン通信)

●2020年1月ー7月期のベラルーシの対EU貿易高、前年同期比15.7%減の63億4000万USD。(9/26)

対EU輸出額は前年同期比24.9%減の26億5340万USD、輸入額は7.5%減の36億8660万USD。貿易赤字10億3320万USDとなった。

(9/26 ペラパン通信)

【治安・軍事】

●ピーチ NATO 軍事委員会委員長の発言 (9/25)

「ベラルーシ情勢を懸念しており、地域における訓練を引き続き注視。」

(9/25 ペラパン通信)

(了)